

平成24年度 町長施政方針

顔が見える関係を活かし、地域のコミュニティを大切にし、自分たちの町のことは自分たちで考え行動する大木町を目指す



行財政の健全化を進め、総合計画の着実な進展を図る

限られた財源の中で最大の効果を発揮する事業を選択し、総合計画の着実な進展を図るローカルマニフェストの公約と第5次大木町総合計画の実施計画との調整を図る。

①『水と緑輝く環境先進のまち』

大木町もつたないない宣言の目標達成のために大木町独自のゴミゼロシステムの構築を目指す。複雑化しているゴミの分別に対し、高齢者を支援す

る制度を確立し、誰もが衛生的に安全に生活できる環境の整備に努める。本町のシンボルであり、町民生活に大きな役割を果たしている『掘の再生』は、再生に向けた意識付けや啓発に重点を置き、住民との協働による『掘の再生』を進めていく。

②『誰もが元気になる健康福祉のまち』

子育て支援の充実については、仕事と子育ての両立支援のために多様化する就業形態にあった支援事業を実施していく。高齢者支援の充実は、高齢者生きがい支援通所事業の充実や新規事業として75歳以上の高齢者住基カード無料化に取り組む。また、『高齢者いきいきサロン』の充実に取り組む。町ぐるみの健康づくり活動の促進が必要で胃がんリスク検診を実施する。

③『次代を担う人を育む教育文化のまち』

平成24年度は大溝小学校の増築、給食受け室の拡大、児童トイレ増設、駐車場整備等を行う。子供たちの学ぶ意欲を高め、確かな学力を育むため、きめ細やかな指導ができるよう中学校数学の非常勤講師、及び小学校の少人数学級のための常勤講師の雇用や特別支援教育支援員確保に力を尽くす。

④『豊かで活力に満ちた元気産業のまち』

農業の振興は、まちづくりの中核を担うもので、積極的な施策を展開する。特にくるるん周辺農地の活用を図る施策を展開する。

⑤『さらなる発展の基盤が整ったまち』

市街地環境の整備は、町の玄関である八丁牟田駅前整備測量業務を継続事業と

して実施し、事業の完成を目指す。

交通安全施設等整備事業により、花宗川〜三八松信号までの自歩道設置の測量設計事業、狭あい道路事業として3地区の道路拡幅改良事業に取り組む。

⑥『みんなの力で未来をつくねまち』

地域住民自らによる地域課題の解決や、お互いに支え合い助け合う自立した地域社会の形成に向け、コミュニティの活性化を促す条件整備を進めていく。



みんなの力で未来をつくるまちづくり

平成23年度一般会計補正予算(3月)

全員賛成で可決

4198万6千円減 総額46億5166万9千円

【主な歳入】

- ・地方交付税 6314万6千円
- ・強い農業づくり交付金 3500万円
- ・財政調整基金繰入金 1億円減

【主な歳出】

- ・大木町公共施設整備基金積立金 1億円
- ・保育所運営委託料 1880万円
- ・強い農業づくり交付金 3500万円

平成23年度特別会計補正予算(3月)

全員賛成で可決

国民健康保険

629万4千円増

総額16億1794万1千円

後期高齢者医療

333万1千円減

総額1億3154万6千円

副町長就任あいさつ

この度、大木町の副町長に新たに就任した玉原です。

大木町については、温暖な気候や恵まれた土地条件を活かした農業が発展を遂げるとともに、近年では、町民の皆様との協働に基づいた循環型地域づくりの取組が推進されるなど、地域づくりの先進的なモデルとして広く注目されているところです。

他方、大木町の地域農業や地域社会を支えてこられている方々の高齢化が年々進行する一方で、福岡市などの都市圏に通勤される町民の増加がみられるなど、大木町の地域社会の状況は少しずつ変化しています。また、国・地方を問わず厳しさを増す行財政状況の中で行政サービスをどう維持・充実していくか、我が国全体の産業構造の変化の中で大木町の地域経済を支える産業をどう活性化していくかなど、町政が抱える課題は引き続き山積しています。

しかしながら、大木町においては、良好な財政状況の下で循環型地域センター「くるるん」や「アクアス」、「道の駅おおき」など地域活性化の中核となる施設が既に整備されていることのみならず、とりわけ、これまで培われてきた町民の皆様との協働による取組態勢が確立されていることから、将来に向けた地域の発展の可能性は非常に高いものと認識しています。

これから、町議会議員をはじめとする町民の皆様としっかりと連携しながら、町長の補佐役として、大木町の豊かなまちづくりのために全力を尽くしてまいりますので、何卒よろしくお願いたします。

